

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 8月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200577		
法人名	メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム千同ひまわり		
所在地	広島県広島市佐伯区千同2丁目6-29 (電話) 082-924-2567		
自己評価作成日	令和5年6月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200577-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200577-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年7月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

活動目標を「地域との交流を大切にします」と掲げ、コロナ禍ではあるが、地域との関わりを大切にしている。千同保育園との交流や公民館で作品を展示させていただいたり、地域の方々の協力も得て色々な行事を行っている。外出も積極的に取り入れ楽しみのある生活を送っていただけるようにしている。また、ホーム内でも入居者様同士や職員と笑い声も多く、入居者様の声を大切に日々の生活の中に取り入れている。コロナ禍でホーム内の様子がなかなかご家族様へ見ていただけない現状の為、玄関に毎月写真を掲示しご家族様が不安のないようにしている。また、2022年7月からはInstagramを開設して、ご家族様をはじめ、多くの方に日々の日常を発信している。

法人理念のもとに策定した事業所のケア目標を今回職員で見直し、利用者に「家族・職員」の文言を加え、「三位一体となって」皆が笑顔で暮らせる環境作りに改定した。コロナ禍で職員本位になりがちな生活作りをケアの原点に立ち返るべく職員が意識統一を図った取り組みである。「馴染みの人や場との関係継続の支援」についても、事業所の新型コロナウイルス感染後の運営推進会議で家族への意見聴取から把握した要望から利用者の外泊に繋げた例もある。又、職員の提案で系列事業所の取り組みを参考に当事業所も会員制交流サイトを開設し、家族に安心してもらえるよう画像や動画にて利用者の普段の生活を発信している。コロナ禍でも感染状況に応じ、ウッドデッキで窓を開けて家族との短時間面会や地域の保育園児との交流等、利用者の笑顔に寄り添った支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を基に、活動目標を職員で考え、朝礼で唱和し全職員が意識して実践につなげていけるようにしている。活動目標を「地域との交流を大切にします」とし、町内との関わりを行っている。	法人理念のもとに策定した事業所のケア目標・活動目標を今回職員で見直し、利用者に家族・職員も加え皆が笑顔で暮らせる環境作りに改定した。その達成の為に職員が順に具体的な月間目標を立て、朝礼での唱和・掲示と共に翌月の目標や取り組みに繋げるべく、その達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ感染症の制限が少しずつ緩和されてきて地域のお神輿や保育園との交流も再開してきている。町内の方のお庭を見せていただいたり、カラオケルームの利用をさせていただいた。公民館へ作品を飾らせていただき見に行く事ができた。町内会にも入っている。	コロナ禍の緩和に伴い、散歩・町内会の回覧板回し・買い物・受診等の日常的な外出や公民館に展示された利用者作品の見学・平和公園へ折り鶴献納・近隣ドライブ等の他、秋祭りの神輿訪問等、相互交流もある。又、地域の看護大学の実習生受け入れ・保育園交流等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の回覧板で新聞を回覧して頂いている。入居者様の作品を公民館で展示させていただいた。また、インスタグラムで写真や動画を配信しホームでの入居者様の様子や活動を見ていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、リモート会議で行っている。ご家族の意見も書面で多くいただき参加して頂いている。リモート会議には、入居者様にも参加していただき意見をいただいている。会議後は、議事録を全家族へ配布している。	最近の会議はコロナ禍のため、地域包括支援センター・事業所・利用者・母体法人関係者とはリモート会議、市認知症地域支援推進員他は書面会議にて意見聴取をしている。議事録は情報を共有すべく全家族に配布し、特に事業所の新型コロナウイルス感染後、家族への意見聴取から外泊に繋がった例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の議事録を地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、区役所にも持参している。	地域包括支援センターとはリモート会議で、市認知症地域支援推進員とは書面会議にて事業所の運営情報を共有している。又、市担当課とは日頃から介護保険制度等に関する相談や報告、市主催の研修会資料の共有、運営推進会議開催報告書の持参等で協力関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について年に2回は勉強する機会があり学んでいる。ホーム内は、自由に移動でき、入居者様の安全の為に玄関を施錠する事があるが閉鎖的にならないようにしている。安全が確保されている場合は、開錠できるようにしている。	職員は法人身体拘束委員会によるeラーニング等、内部研修を通して身体拘束をしない必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対し職員間で注意し合える関係性もある。日中は1階玄関を施錠せず、夜間も人感センサーによる対応をしている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホーム内での勉強会と法人内の研修の年に2回で虐待防止について学ぶ機会を持っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は研修、勉強会で学び理解し資料を振り返って見直している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書・利用約款を基に説明を行い、質問にお答えしている。ご理解を得てから入居していただいている。また、利用中の改定時にも速やかに説明を行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご本人に意見や要望をお聞きしご家族には面会時や電話の時の状態を伝える時にお聞きしている。また、意見箱を設置し投書できる所をもうけている。	家族の要望は窓越し面会時・電話・法人の満足度調査等を通して把握し、職員会議等で共有して迅速な対応に努めている。事業所の新型コロナウイルス感染後の運営推進会議で家族への意見聴取から外泊に繋げたり、系列事業所の会員制交流アプリ(SNS)の事業所ページを見た家族の要望で職員の犬を利用者に会わせたとある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ会議を月に1回行い、職員の意見を聞いている。管理者とスタッフの距離が近く日常的に意見・要望を聞く事ができる環境にある。</p>	<p>毎月の職員会議・毎日の申し送り・随時又は年2回の個別面談等を通し管理者は職員の意見を聞く機会を設け業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員の提案で系列事業所を参考に当事業所のSNSの事業所ページを開設したり、新入職員に各階の利用者情報が得やすいシフトに調整している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課面接で職員の要望、目標を聞き、職員の生活や体調を考慮し安心して働きやすい環境にある。また、日頃より職員の得意な事を活かして仕事に発揮してもらうように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎月、法人内で研修を受けられる体制がある。パソコン、タブレット、スマートフォンを使用し時間・場所を気にせず研修を受ける事ができる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内のグループホーム長会議で意見交換を行っている。各会議の議事録はスタッフが共有できるようにしている。法人内のグループホームで研修する機会をつくりサービス向上につなげている。また、各グループホームの運営推進会議の議事録を閲覧できるようにし、当ホームの参考にしている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族から同意を得て、入居前から携わっておられたケアマネージャー、施設の方から情報を伺っている。入居前には面談を行い、ご本人から情報を得て、安心して入居していただけるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人とご家族に見学に来ていただき、ホームの様子を実際に見ていただき、毎日の生活の説明を行っている。また、要望や質問を伺い少しでも不安がなく入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の話聞き必要と思われるサービスを提供できるよう努めている。法人外の歯科往診、訪問マッサージ、理美容カットも利用していただいている。法人内の理学療法士の指示のもと介護職員が個別訓練も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は認知症という病気を理解し入居者様と共に暮らす対等な立場にある個人として尊重している。人生の先輩である入居者様から教えていただく事も多くあり感謝の言葉を伝え良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、写真入りのお手紙をご家族へ送っている。日常の様子をインスタグラムで発信したり玄関に写真を貼り、様子がわかる様にしている。面会時には、日頃のご様子を報告しいつでも相談ができる様な関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、親戚、友人など面会や電話、手紙の交換を続けられるように支援している。居室内には、写真など馴染みの品を置かれている。コロナ禍以前は通っていた美容院へご家族と一緒に連れて行かれた。現在は、コロナ禍の為、訪問していただいている。	コロナ禍でも感染状況に応じ、ウッドデッキで窓を開けての短時間面会、手紙・電話の取り次ぎ、紫陽寺・公民館ドライブ等、馴染みの場所・馴染みの顔や声との何気ない日常や利用者の笑顔に寄り添った支援に努めている。又、入院中の利用者に利用者からの見舞い状を送った例もある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一緒に家事活動、レクリエーションなどを行い時間を共有することにより関わりを深め、お互いをよく知り尊重し支え合えるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族が近隣にお住まいの事があり、顔を合わせる機会があり、様子を尋ねたりし、気軽に相談を受けれるように関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中でご本人の希望を聞いたり、何気ない会話の中から思いを汲み取る様にしている。また、意思表示が難しい方は、普段の表情やご家族様からも情報を聞き、記録などに残して職員が共有できるようにしている。	職員は利用者と一緒に話さず中深く関わりを持ち思いを汲み取って、タブレットに入力・職員会議・介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。食事の自力摂取が困難な利用者に対し、餃子作りが得意だったという家族情報から料理作りへの協力を立案した例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の基本情報の把握だけでなく普段の会話や面会に来られたご家族などからも生活歴などの情報をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の生活の様子などを具体的に記録し現状の状態を把握し何かいつもと違った様子が見られれば職員間で申し送りを行い情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者様の担当者が3ヶ月ごと、または、必要時にもモニタリング、カンファレンスを行い意見交換を行っている。日常生活中でもご本人から思いを聞いたり、ご家族からもお話を伺っている。	介護計画のケア実施状況を毎日タブレットに入力し、担当職員が三ヶ月を基本にモニタリングを行い担当者会議で職員本位にならない立案に努めている。入院中のご主人を見舞える様に歩行練習を計画したり、昔カラオケ喫茶に行っていた利用者に隣のカラオケの館で歌える支援を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の日々の気付きや受診内容、家族への伝達事項などを記録だけでなく個人ノートに色分けして見直しやすくして共有している。また、ケアプランの実践内容もタブレットを活用してすぐに見直せるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービス以外に必要であれば訪問マッサージ、訪問歯科、訪問美容などを取り入れサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方のお庭や桜を見に行かせていただいたり近隣の保育園の園児との交流や隣家のカラオケ設備をお借りしたりと積極的に地域との関わりを持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人とご家族の要望を聞き、かかりつけ医を決めている。また、母体は医療法人の廿日市野村病院で、多くの方がかかりつけ医にしている。週1回、野村病院の看護師の訪問もあり、報告・相談する体制がある。その他でも、電話連絡にて相談し、連携を図っている。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。利用者は母体協力医療機関で1～2ヶ月に1度定期受診を行っている。又、週に1度、協力歯科医から訪問診療や母体の協力医療機関から看護師の訪問もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の関わりの中での情報、変化、気付きは、連絡し相談出来る体制が整っている。必要があれば医師の指示をもらい受診を行っている。週に1回、廿日市野村病院の看護師が来所し、相談や報告を行っている。必要時は、受診の指示を受けるなど連携を図っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する前には、医師からご家族様へ病状の説明があり治療方針の説明やご家族様の意向を聞いている。入院後は相談員や担当の看護師と連絡を取り合い情報交換・共有に努めている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りに関する指針を明記し入居時と状態が変わった時にご家族にお伝えしている。医師や看護師には状態が変化した場合などその都度報告、相談出来る体制があり、ご家族やご本人の意向を踏まえ、より良い支援ができるように努めている。	要望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に重度化した場合及び看取りに関する指針を家族に説明し了承を得ている。重度化した際には関係者で協議し、指針に基づき適切な支援を行う方針である。現管理者のもと、3年で1例を看取り、遺族へのケア（グリーンケア）や振り返りも行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応の研修を行っている。緊急時のマニュアルをすぐに確認できるように設置している。また、個人で対応が必要になった場合には個人対応をご家族と担当医に確認し職員全員が把握できるようにしている。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を毎月実施し、全職員が身につけられるように取り組んでいる。また、コロナの状況をみながら消防署の立ち合い訓練も予定している。自動火災通報装置に地域の方の電話番号も登録させていただいている。	消防署指導のもとに夜間想定や利用者も参加して、毎月の火災避難訓練や年に1回水害避難訓練を実施している。又、地域との協力体制も整備しており、自動火災通報装置には地域協力員の電話番号も登録され、火災発生時には隣地の自治会副会長他も2次避難誘導に協力する体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助時は、声かけを丁寧におこなうことや、職員同士の報告は大きい声でおこなわないなど配慮している。職員の対応で気になった時は、お互いに声を掛け合い気をつけるようにしている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気作りに努めている。個人情報の扱いもSNSの事業所ページ配信については法人による事前確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中でコミュニケーションをおこない信頼関係を築きご本人の思いなどを表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活リズムを把握・優先し、その日の体調をみながらレクリエーションや家事活動の声かけを行うようにしている。入居者様一人ひとりのペースで生活できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人が今までのおしゃれを続けられるように、お化粧品や衣類などご本人の要望を聞きご家族に連絡し協力して頂いている。マニキュアや、入浴後にカーラーで髪を巻くなどお手伝いさせていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬な食材を取り入れ、季節に応じたメニューを提供している。食べる力に応じた食事形態やお皿を考え食事が楽しめるように工夫している。また、行事食の時には、見た目にもこだわりいつもと違う雰囲気を味わっていただいている。食事の準備や食後の食器洗い、お膳拭きなど積極的にしていただいている。	毎日の献立は季節や食材を勘案し職員による三食手作りである。誕生日には好みの物を提供し、菜園野菜の活用、おやつ作り、隣家の庭で花見ランチ、ケーキ工場で喫茶等を楽しむこともある。利用者は食事の準備や食後の片付け等をし、又利用者に応じた個別テーブルを導入する事もある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食べる量は一人ひとりに合った量を提供し、食事量の少ない方には、栄養士に助言を受けている。水分量の少ない方は、水分摂取量を記録し好みの飲み物を提供し飲んで頂くように支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけを行い、介助の必要な方には職員が口腔ケアのお手伝いをさせていただいている。また、訪問歯科から口腔指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の失敗の多い方は、排泄表を作成し、排泄パターンの把握・自立に努めている。</p>	<p>排泄記録表から排泄パターンを把握しトイレ誘導を基本としている。尊厳やプライバシーに配慮してケアに関わり、高齢者住宅で個室トイレを利用していた方にはポータブルトイレの設置、又夜間の転倒防止に人感センサーを設置する等、利用者の状態に応じた排泄の自立支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便の記録を記載し水分摂取（ヨーグルト・牛乳等）の提供に努めている。運動は健康状態に応じて適宜おこなっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>曜日に関係なくご本人の希望を取り入れ定期的に入浴していただいている。秋には、もみじ、冬には柚子湯等、季節を感じていただき入浴を楽しんでいただいている。</p>	<p>週2回、午前・午後の入浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等で柔軟に対応している。据え置き型家庭浴槽での個人浴の他、シャワー浴・足浴等の対応もしている。入口に暖簾、浴室壁面に富士山の絵を貼ったり、冬至に柚子湯等の提供や工夫もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に応じてお昼寝していただいたりと休息をしていただいている。布団の調節や室温にも配慮している。照明の明るさは、ご希望に沿って対応している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋はすぐに職員が見る事ができるようファイルしている。また、受診にて薬に変更があった場合は連絡ノートに記入し申し送りをおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯干し・洗濯物たたみ・お盆拭き等、役割を持たれている。また、散歩や買い物、歌をうたわれたりと毎日、楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩に出かけたり、地域の方に場所をお借りしカラオケを楽しんだり、買い物やドライブなどお一人おひとりのご希望に沿えるように努めている。	コロナ禍の緩和に伴い、散歩・買い物・受診等の日常的な外出や公民館に展示された利用者作品の見学・平和公園へ折り鶴献納・隣家でのカラオケ・近隣公園で系列事業所と花見交流会・紫陽花寺等への近隣ドライブで「非日常」を楽しんだり、気分転換を図る外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	スーパーでの買い物や自動販売機でジュースを買われたりと買い物支援を行っている。金銭管理については、ご本人やご家族と相談の上、決めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望時にはおかけし、お話をしている。伝言を頼まれる時は、職員がメールや電話をしてご家族へお伝えしている。ハガキを書かれる方には、声かけやポストへ投函する支援をおこなっている。年賀状や暑中お見舞いの手作りのハガキも支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは開放感があり朝日も気持ちよくカーテンで光の調節をしている。季節を感じる手作りの壁紙を入居者様と一緒に毎月作成している。	屋内外の花・野菜や季節行事の飾り付けや紫陽花飾り等、利用者が取り組んだ壁掛け作品等で季節の移ろいが感じられるよう配慮している。コロナ禍でも感染状況に応じ、アクリル板の設置やウッドデッキで窓を開けての短時間面会等、感染経路の遮断を重点に万全を期している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファやテラスで気の合う方同士でお話をされている。また、居室へお招きしてお話される事も多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご自宅で使用されていた家具やお布団、ご家族の写真等を持ち込まれている。ジュタンや座布団を引かれている方もおられる。	居室にはベッド・クローゼット・洗面台等を設置し、家具等、使い慣れた物や家族写真等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。ベッドに人感センサーを設置して転倒防止を図ったり、ベッドから居室扉までの導線確保のためベッド配置を変える等の工夫もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ・浴室には手すりを設置している。トイレは分かりやすいように張り紙を貼っている。各自室では、安全に過ごせるよう物の配置・高さ等に配慮し物の場所が分かるようにラベルを貼っている。		

V アウトカム項目( 1階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を基に、活動目標を職員で考え、朝礼で唱和し全職員が意識して実践につなげていけるようにしている。活動目標を「地域との交流を大切にします」とし、町内との関わりを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	コロナ感染症の制限が少しずつ緩和されてきて地域のお神輿や保育園との交流も再開してきている。町内の方のお庭を見せていただいたり、カラオケルームの利用をさせていただいた。公民館へ作品を飾らせていただき見に行く事ができた。町内会にも入っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の回覧板で新聞を回覧して頂いている。入居者様の作品を公民館で展示させていただいた。また、インスタグラムで写真や動画を配信しホームでの入居者様の様子や活動を見ていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、リモート会議で行っている。ご家族様の意見も書面で多くいただき参加して頂いている。リモート会議には、入居者様にも参加していただき意見をいただいている。会議後は、議事録を全家族へ配布している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の議事録を地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、区役所にも持参している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について年に2回は勉強する機会があり学んでいる。ホーム内は、自由に移動でき、入居者様の安全の為に玄関を施錠する事があるが閉鎖的にならないようにしている。安全が確保されている場合は、開錠できるようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ホーム内での勉強会と法人内の研修の年に2回で虐待防止について学ぶ機会を持っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は研修、勉強会で学び理解し資料を振り返って見直している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書・利用約款を基に説明を行い、質問にお答えしている。ご理解を得てから入居していただいている。また、利用中の改定時にも速やかに説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご本人に意見や要望をお聞きしご家族には面会時や電話の時の状態を伝える時にお聞きしている。また、意見箱を設置し投書できる所をもうけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月スタッフ会議を行い、職員の意見を聞き話し合いをしてり管理者と各職員で面談を行い個人的にも意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は人事考課にて職員と話しをし目標や改善点など確認している。また、職員の生活環境にも配慮し安心して働きやすい環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、法人内で研修を受けられる体制がある。パソコン、タブレット、スマートフォンを使用し時間・場所を気にせず研修を受ける事ができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内のグループホーム長会議で意見交換を行っている。各会議の議事録はスタッフが共有できるようにしている。法人内のグループホームで研修する機会をつくりサービス向上につなげている。また、各グループホームの運営推進会議の議事録を閲覧できるようにし、当ホームの参考にしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族から同意を得て、入居前から携わっておられたケアマネージャー、施設の方から情報を伺っている。入居前には面談を行い、ご本人から情報を得て、安心して入居していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人とご家族に見学に来ていただき、ホームの様子を実際に見ていただき、毎日の生活の説明を行っている。また、要望や質問を伺い少しでも不安がなく入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の話聞き必要と思われるサービスを提供できるよう努めている。法人外の歯科往診、訪問マッサージ、理美容カットも利用していただいている。法人内の理学療法士の指示のもと介護職員が個別訓練も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は認知症という病気を理解し入居者様と共に暮らす対等な立場にある個人として尊重している。人生の先輩である入居者様から教えていただく事も多くあり感謝の言葉を伝え良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ご家族へ写真入りのお手紙を送っている。Instagramを開設し日常の様子をリアルタイムで見てもらえるように発信している。面会時やメールなど、いつでも相談しやすい環境作りを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お友達との電話や手紙支援、ご家族へ年賀状、暑中見舞いのハガキを書いていただき繋がりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性を考慮して食事の席を決め個々が孤立せず関わりやすい環境に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族が近隣にお住まいの事があり、顔を合わせる機会があり、様子を尋ねたりし、気軽に相談を受けれるように関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中でご本人の希望を聞いたり何気ない会話の中から思いを汲み取る様にしている。また、意思表示が難しい方は、普段の表情からも情報を聞き、記録などに残して職員で共有できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の基本情報だけでなく、普段の会話や面会に来られたご家族などからも生活歴などの情報をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の日常生活の中で会話や表情などを行動記録に残している。また、特別に何かあった時は個人ノートにも記入して職員間で情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者様の担当者が3ヶ月ごと、または、必要時にもモニタリング、カンファレンスを行い意見交換を行っている。日常生活中でもご本人から思いを聞いたり、ご家族からもお話を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の日々の気付きや受診内容、ご家族への伝達事項などを記録だけでなく個人ノートに色分けして見直しやすくして共有している。また、ケアプランの実践内容もタブレットを活用してすぐに見直せるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービス以外に必要であれば訪問マッサージ、訪問歯科、訪問美容などを取り入れサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方のお庭や桜を見に行かせていただいたり近隣の保育園の園児との交流や隣家のカラオケ設備をお借りしたりと積極的に地域との関わりを持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人とご家族の要望を聞き、かかりつけ医を決めている。また、母体は医療法人の廿日市野村病院で、多くの方がかかりつけ医にしている。週1回、野村病院の看護師の訪問もあり、報告・相談する体制がある。その他でも、電話連絡にて相談し、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員に看護師がおり、日常的に相談している。訪問看護師にも訪問看護記録を利用して日常での気付きや情報交換、共有に努めている。また、訪問看護師から担当医へ報告や相談をしてもらい必要時は受診できるよう連携体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する前には、医師からご家族へ病状の説明があり治療方針の説明やご家族様の意向を聞いている。入院後は相談員や担当の看護師と連絡を取り合い情報交換・共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りに関する指針を明記し入居時と状態が変わった時にご家族にお伝えしている。医師や看護師には状態が変化した時などその都度報告、相談出来る体制があり、ご家族やご本人の意向を踏まえ、より良い支援ができるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応の研修を行っている。緊急時のマニュアルをすぐに確認できるように設置している。また、個人で対応が必要になった場合には個人対応をご家族と担当医に確認し職員全員が把握できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を毎月実施し、全職員が身につけられるように取り組んでいる。また、コロナの状況をみながら消防署の立ち合い訓練も予定している。自動火災通報装置に地域の方の電話番号も登録させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助時は、声かけを丁寧におこなうことや、職員同士の報告は大きい声でおこなわないなど配慮している。職員の対応で気になった時は、お互いに声を掛け合い気をつけるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中でコミュニケーションをおこない信頼関係を築きご本人の思いなどを表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活リズムを把握・優先し、その日の体調をみながらレクリエーションや家事活動の声かけを行うようにしている。入居者様一人ひとりのペースで生活できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時の着替えなどは、職員と一緒に服を選んだり、白髪染めを希望される方には職員がおこなうこともあった。訪問美容を利用していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬な食材を取り入れ、季節に応じたメニューを提供している。食べる力に応じた食事形態やお皿を考え食事が楽しめるように工夫している。また、行事食の時には、見た目にもこだわりいつもと違う雰囲気味わっていただいている。食事の準備や食後の食器洗い、お膳拭きなど積極的にしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食時と10時、15時、入浴後に水分補給をしていただき好みのものを提供し、飲んでいただくようにしている。食事は見た目・味・硬さに気を配りキザミ・ミキサーなどの形態も提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけを行い、介助の必要な方には職員が口腔ケアのお手伝いをさせていただいている。また、訪問歯科から口腔指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の失敗の多い方は、排泄表を作成し、排泄パターンの把握している。トイレの声かけをおこない自立に努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便の記録を記載し水分摂取（ヨーグルト・牛乳等）の提供に努めている。運動は健康状態に応じて適宜おこなっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>曜日に関係なくご本人の希望を取り入れ定期的に入浴していただいている。秋には、もみじ、冬には柚子湯等、季節を感じていただき入浴を楽しんでいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に応じてお昼寝していただいたり、休息をしていただいている。布団の調節や室温にも配慮している。証明の明るさは、ご希望に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋はすぐに職員が見る事ができるようファイルしている。また、受診にて薬に変更があった場合は連絡ノートに記入し申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の情報や普段の会話などから一人ひとりに合った1日の過ごし方や楽しみ、生きがい等を模索し、日々の生活が充実できるよう支援している。洗濯物たたみなどしていただき生きがいや役割を持っていただけるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナが落ち着いてきて、散歩やドライブ、買い物など少しずつ外出へ出かけている。地域の方のご協力でお庭のつつじを見せていただいたり、カラオケの場所をお借りして楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理については、ご本人・ご家族と相談の上、決めている。自室にミニ金庫を置いておられる方もおられ自室にお金がある事で安心されておられる。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望時には、電話をおかけし、話をしていただいている。また、ご家族へのハガキや年賀状・暑中お見舞いの手作りハガキの支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは解放感があり朝日も気持ちよくカーテンで光の調節をしている。季節を感じる手作りの壁紙を入居者様と一緒に毎月作成している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と一緒に話ができるように声かけを行い、近くにお連れしてお話ができるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、ご本人の使い慣れた物をご用意していただいている。また、状態に合わせてご本人やご家族へ相談しレイアウトを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ・浴室には手すりを設置。トイレは分かりやすいように張り紙を貼っている。各自室では、安全に過ごせるよう物の配置・高さ等に配慮し物の場所が分かるようにラベルを貼っている。		

V アウトカム項目( 2階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム千同ひまわり

作成日 令和5年9月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出の機会を増やし、開放的なホームをめざす。	外出を楽しんでいただく。	希望や思いを聞き、外出支援に取り組む。少人数ずつの外出計画をたて、実行する。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。